



あぐり情報 Aguri Information

営農生活課
森永 諭

10月になり、水稻生産者の皆様も作業等は一段落しましたでしょうか。

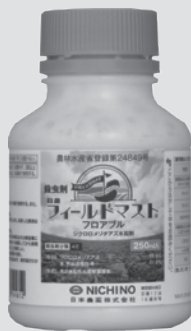
今年は世間でも騒がれていたとおり米穀事情が非常に目まぐるしく変化し、また猛暑やカメムシ被害や雑草の発生など水稻生産者の方にとっても大変な年だったかと思えます。

今回のあぐり情報では、来年の水稻栽培に向けて近年問題となっている水田雑草とそれらに対する秋季防除についてご紹介します。



◎農薬のご紹介

フィールドマストフロアブル



アブラナ科野菜をはじめとした秋冬野菜に広く適用のある新規農薬「フィールドマストフロアブル」が登場しました。チョウ目害虫やキスジノミハムシに効果があり、また、新規成分の薬剤であるため既存の薬剤に抵抗性のあるコナガの防除にも対応しています。薬剤ローテーションの一つに加えてみてはいかがでしょうか。適用表は以下のとおりです。

フィールドマストフロアブル

規格…250ml

価格…7,876円（税込）
（令和7年9月10日現在）

来年に向けた水田雑草対策

注意すべき雑草

●ヒレタゴボウ （別名アメリカミズキンバイ）



ヒレタゴボウ（別名アメリカミズキンバイ）は元々、関東以西の水田で問題化していた雑草ですが、近年では茨城県や千葉県内でも見られるようになりました。

草はよく枝分かれし、高さ1m以上になり黄色の花を開花させま

す。水田においては、一般的に移植後湛水深があればほとんど発生しませんが、田面が露出する中干頃に発生してきます。発生時期が遅いので、田植え直後の除草剤だけで発生を抑制することは難しく、中干後に中後期剤を使用する必要があります。

茎が太くなるので、収穫時にはコンバインの刃を傷つけることとなり、非常に厄介です。その他にも、水田畦畔や水稻の刈後、秋起こし後の圃場でも発生がみられます。

一年生雑草なので、種を落とす前に除草することで翌年の発生を抑えることが出来るので、特に刈り取りの遅い圃場や、畦畔に発生した場合には早めに除草しておくことが重要です。発生があった圃場では、稲刈り後に除草剤散布をすることで、翌年の発生密度を抑

えることができます。稲刈り後の除草剤散布では非選択制除草剤（ラウンドアップ等）を散布して対策しておきましょう。

●ナガエツルノゲイトウ

特定外来水生植物であるナガエツルノゲイトウは種子をつけませんが、節がついていれば数センチメートル程度の茎や根の切れ端からでも再生することが出来る拡散力の強い植物です。秋の耕うん前に水田内で発生していないか確認しましょう。

除草についてはラウンドアップを降霜期までに散布します。

除草剤を散布しても完全に枯死させることは難しいため、地上部が枯れた後、残った株を根元から手で丁寧に取り除きましょう。

秋耕の際は、農機に付着した茎断片の拡散を防止するため、発生のないほ場から先に耕うんし、発生ほ場での作業後は農機をよく洗浄しましょう。



天秤座 9/23～10/23

【全体運】上昇運。強い反発は次第に収まってきます。意見は丁寧に伝えましょう。感情的にならないければ好結果をゲット
【健康運】睡眠をしっかり取って。目を大切にしましょう
【幸運の食べ物】マツタケ



Libra

蠍座 10/24～11/22

【全体運】調和が取れるようになり大きく進展。気負わずに淡々と役目を果たして。周囲があなたの価値に気付きます
【健康運】靴は履きやすさを優先。転びにくいものを選んで
【幸運の食べ物】チンゲンサイ



Scorpio